

# 予算過程での反映方法及び事後の効果検証スキームの精度向上について

## (1) 予算過程での反映方法について

### 予算(検討・要求)過程におけるEBPMの取組の現状

#### 令和4年度のEBPMの取組について(行革事務局方針)

- 予算検討・要求プロセスにおいて、会計部局と連携の下、ロジックモデル等の積極的な活用による政策のロジックやエビデンスの検討の取組を推進。また、財務省主計局への説明においてもロジックモデル等を積極的に活用
- 行政事業レビューにおいて、新規予算要求事業（10億円以上）及び公開プロセス対象事業について、原則、ロジックモデルを作成・公表  
また、過年度のEBPMの実践については、その取組を継続する。

#### 当省の予算(検討・要求)過程における活用

- 令和5年度予算（検討・要求）過程は以下のとおりであり、新規予算要求事業（1億円以上）、モデル事業、大幅見直し事業等において、説明資料としてロジックモデルを活用
  - 令和4年4月以降 各部局において予算要求内容の検討（ロジックモデルの作成）
  - 6月中旬～ 各部局のロジックモデルをEBPM推進チーム事務局で確認し、修正案を提示し調整（18事業）
  - 7月上旬～ 各部局は会計課説明において、ロジックモデルを活用（令和4年度の実践事業は17事業）
  - 8月末～ 財務省主計局説明においても、ロジックモデルを活用（令和4年度の実践事業は17事業）
  - 12月末 政府予算案内示（ロジックモデルに修正があれば反映）
- 令和4年度行政事業レビューにおけるEBPMの取組
  - 6月2日 公開プロセスにおいて、ロジックモデルを活用（5事業）
  - 11月9日 秋の行政事業レビューにおいても、ロジックモデルを活用（1事業）

### 予算(検討・要求)過程の課題

本年度、予算プロセスとEBPMの一体的取組を行った結果、以下のような課題が散見された。

- ロジックモデルは、論理展開の妥当性の確認などに一定の有効性が認められるが、説明資料としては十分に活用されていないケースがあった。
- 最も要求額が大きい事業の中からEBPMの実践事業を選定する場合、EBPMに馴染む事業か否かの部局内の調整に時間を要し、提出期限までに提出されず、会計課説明までにロジックモデルのブラッシュアップが間に合わないケースがあった。また、このような場合、EBPM実践担当者研修が受講されないケースがあった。

## (2) 事後の効果検証スキームの精度向上について

### EBPMの効果検証の取組における現状と予定

#### 令和4年度の効果検証の取組における現状

- 令和2年度のEBPM実践事業は、令和4年度が効果検証の実施年度に当たるため、事業効果を検証（自己点検）
- 令和3年度のEBPM実践事業は、令和5年度の効果検証に向けて、事業を実施
- 令和4年度のEBPM実践事業の中から、重点フォローアップ事業（9事業）を選定し、効果検証手法等を提示（令和6年度に向けて）
- 重点フォローアップ事業の中から、効果検証方法の精度向上を図るため、効果検証対象事業（1～3事業）を選定予定(令和6年度に効果検証を実施)
- 平成30年度及び令和3年度のEBPM実践事業について効果検証の実施（2事業）
- 効果検証方法等に係る相談支援（よろず相談所）の実施
- 事例集を作成し、効果検証を含めた好事例を横展開
- 効果検証結果を踏まえた事業の改善

#### 令和4年度EBPM実践事業の効果検証(令和6年度の効果検証)の取組予定

- 令和4年度のEBPM実践事業については、令和5年度の事業実施後の令和6年度に事業効果を検証（自己点検）
- 効果検証方法等に係る相談支援（よろず相談所）の実施
- 事例集を作成し、効果検証を含めた好事例を横展開
- 効果検証結果を踏まえた事業の改善

### EBPMの効果検証の取組の課題

令和2年度及び令和3年度のEBPM実践事業についてフォローアップを行った結果、以下のような課題が散見された。

- 効果検証に取り組むに当たり、人的（効果検証を実施し、その結果を分析できる専門的人材）、予算的（効果検証のための調査を実施する予算、効果検証方法に関連する予算など）、時間的リソースが不足している。
- 効果検証を事業に組み込んで実施している事業がある一方で、厳密な効果検証を必要としていない事業も多くみられた。
- 効果検証手法については、データの取得（特に対照群の設定や事業実施前のデータ取得など）が困難なことから、提示した分析のレベルを下げるケースがあった。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、円滑な事業の実施が困難となったため、効果検証ができないケースがあった。